

担当者	佐藤宏樹（学び・学生支援機構）
題目	理論と実践から捉えなおすファシリテーション
学期	2025年度 第3クウォーター
授業形式	対面（一部オンラインも対応可能：座学パート）
科目の概要	
近年、ビジネス会議や学校でのグループワーク、ワークショップなど、対話を促す力としてのファシリテーションと、それを実践する役割としてファシリテーターの存在が求められるようになりました。 本講座では、「協働」や「共創」の実現のため、心理的に安全な対話の環境を設け、創造的な対話を促進するファシリテーターとしての力の基礎を身につけることを目的とします。そのため、ファシリテーションに関する理論を学ぶ座学パートと、そこで学んだ内容をグループワークで実践する演習パートを1つのペアとして設計しています。 理論と実践を通して、体系だったファシリテーション力を身につけていきましょう。	
学習目標	
本講座では、全体をとおして次のような知識・スキルの習得を目指します。 ・ファシリテーション及び、コミュニケーションにまつわる理論を理解し、他者に説明することができる。 ・自分自身のコミュニケーションスタイル（傾向）を俯瞰的視点から捉え、言語化することができる。 ・理論及び、自身のコミュニケーションスタイルを認識した上で、それらを活用したファシリテーションを言語化、実践することができる。	
授業計画	
第1回	【座学主体】 ・ 講座の進め方について説明 ・ ファシリテーション理論の整理、ファシリテーションが求められる社会背景について
第2回	【座学主体】 ・ ファシリテーターの「素養」① ・ スキル・能力・思考・知識
第3回	【演習主体】 ・ 聴く・観る・促す技術
第4回	【座学主体】 ・ ファシリテーターの「素養」② ・ 在り方・纏・個性
第5回	【演習主体】 ・ 自己の在り方の認識と応用
第6回	【座学主体】 ・ ファシリテーターの「思想」と「行動」 ・ 場の流動性・ファシリテーターの流動性
第7回	【演習主体】 ・ 場の理想像の構築と行動指針の明確化
第8回	【課題発表】 ・ 期末課題発表と相互フィードバック
主な対象者	社会人、大学生、高校生
テキスト	必要な際は資料を配布します。
参考書・資料	・ 中野民夫（2001）『ワークショップ』，岩波書店。 ・ 中野民夫、堀公俊（2009）『対話する力-ファシリテーター23の問い』，日経BPマーケティング。 ・ ケネス・J・ガーゲン著、東村智子訳（2004）『あなたへの社会構成主義』，ナカニシヤ出版。 ・ ボブ・スティルガー著、野村恭彦監訳、豊島瑞穂訳（2015）『未来が見えなくなったとき、僕たちは何を語ればいいのかのだろう』，英治出版。
キーワード	ファシリテーション、コミュニケーション、対話、心理的安全性
備考	